

# Stereo

オーディオの総合月刊誌 ステレオ

2016

12

December

音楽之友社創立75周年

75<sup>th</sup>  
Anniversary

増大  
特集

## 今年のNo.1コンポはこれだ!

### 年間最優秀コンポ2016

熱烈支持!私のNo.1を選ぶ

### 年間最優秀デジタルファイル・コンポ2016

●ザ・グレートコンポーネント マランツSA-10

注目製品ファイル特別版・エラックUni-Fiシリーズに迫る

Marantz  
SUPER AUDIO CD PLAYER SA-10



12 2:43

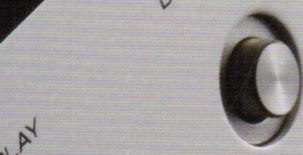
DISPLAY OFF

MULTI

STANDBY

DISC/INPUT

DISPLAY



# パワーアンプ部門

## フェーズメーション

**MA-2000** ¥1,250,000/1台 (mono)

●定格出力:25W ●出力インピーダンス:4Ω、8Ω  
●入力端子:RCA×1 ●スピーカー出力端子:1組(4Ω/8Ω別)  
●大きさ:270W×245H×433Dmm ●重さ:20kg ※12月中旬発売予定 〓協同電子エンジニアリング

ダブルウーファーを搭載するJBLのEverest DD6600を本機が、歪み感なく朗々とドライブしたことに驚かされた。その音は、まさに「豊潤」という言葉が相応しく、倍音豊かで緻密な奏者や歌い手を空間に描写する。●角田

石田☆☆  
山田☆☆  
鈴木☆☆  
藤田☆☆  
角田☆☆☆☆  
福田☆☆  
藤岡☆☆  
山之内☆☆  
岩出☆☆



## オクターブ RE320

¥1,450,000

●連続出力(4Ω時):130W×2 ●入力端子:RCA×1、XLR×1 ●スピーカー出力端子:1組 ●大きさ:488W×211H×410Dmm(ノブ、端子、グリル含む) ●重さ:27.6kg 〓フューレンコーディネート

新型5極出力管KT150プッシュプル真空管方式ステレオ・パワーアンプ。出力は130W/ch(4Ω)。出力トランスは新設計。初段〜ドライブ段はすべてECC82。入力はRCAとXLR。XLRにはOPアンプが介在する。●藤岡

石田☆☆  
山田☆☆☆  
鈴木☆☆  
須藤☆☆  
福田☆☆  
藤岡☆☆☆  
山之内☆☆  
岩出☆☆



2位

## アコースティック・アーツ

**MONO III** ¥3,800,000pair

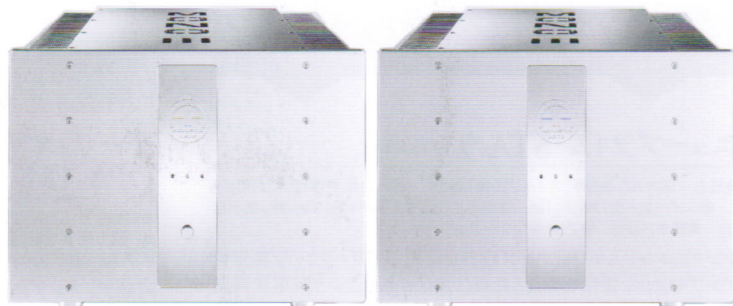
●定格出力:600W(8Ω)、1100W(4Ω) ●入力端子:XLR×1 ●大きさ:482W×350H×430Dmm ●重さ:60kg 〓ハイ・ファイ・ジャパン

アコースティック・アーツ(ドイツ)のモノブロック・パワーアンプ。出力は600W(8Ω)、1100W(4Ω)を発生。スピーカーシステムを極めて強力に駆動する。出力段は24個のMOS-FETで構成。電源も強力。重量60kg。●藤岡

石田☆☆  
山田☆☆☆  
鈴木☆☆  
藤岡☆☆  
藤岡☆☆☆☆  
山之内☆☆



3位





### アコースティック・アーツ AMP II-MK3 ¥1,850,000

●定格出力:275W×2(8Ω)、675W×2(2Ω) ●入力:XLR×1、RCA×1 ●大きさ:482W×350H×430Dmm ●重さ:55kg ●音ハイ・ファイ・ジャパン

MK2からダンピングファクターが高められ、最大出力や歪み率などにも向上がみられる。天板はロゴマークが切り抜かれ存在感はそのまま。24個のMOS-FETやトロイダルトランスなどに大きな変更はなさそう。●石田

石田☆☆  
鈴木☆☆  
角田☆☆  
福田☆☆  
山之内☆☆

### マークレビンソン No.534 ¥2,150,000

●定格出力:250W×2(8Ω) ●入力:XLR×1、RCA×1 ●スピーカー出力端子:2組(並列) ●大きさ:438W×197H×530Dmm ●重さ:48.5kg ※12月下旬発売予定 ●ハーマンインターナショナル

モノラル・パワーアンプNo.536の設計思想を忠実に受け継ぎながらデュアルモノ構成に変更した最新のステレオ・パワーアンプ。応答性の良い低音と浸透力の強い高域など、No.536に肉薄する性能を秘める。●山之内

石田☆☆  
貝山☆☆  
福田☆  
藤岡☆  
山之内☆☆



### クリーク Evolution 50P ¥150,000

●出力:55W×2(8Ω)、85W×2(4Ω) ●入力端子:RCA×1、XLR×1 ●スピーカー出力端子:1組 ●大きさ:430W×60H×280Dmm ●重さ:7.5kg ●音ハイ・ファイ・ジャパン

高さ60mmの薄型ステレオ・パワーアンプ。電源トランスは200VAのトロイダルコア型で電力増幅用と電圧増幅用に巻線が独立している。出力は55W/ch(8Ω)、85W/ch(4Ω)を発生。入力RCAとXLR端子を装備。●藤岡

福田☆  
藤岡☆  
岩出☆☆

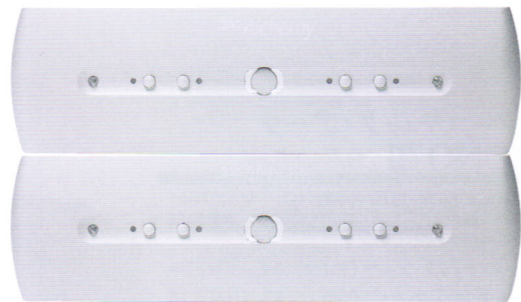


### ニュープライム STA-9 ¥95,000

●出力:120W×2、290W(ブリッジ接続)(4Ω) ●入力端子:XLR×1、RCA×1 ●スピーカー出力端子:1組 ●大きさ:235W×55H×281Dmm(脚、端子含む) ●重さ:4.8kg ●音フェーレンコーディネート

シングルエンドA+D級アンプ設計を採用のパワーアンプ。真空管アンプのような特性を備えるために強化されたという偶数次高調波回路を搭載。ステレオアンプとブリッジ・モノラルアンプの切り換え機能なども装備する。●須藤

須藤☆☆  
福田☆



### オーディオ・アルケミー DPA-1M ¥760,000pair

●定格出力:325W(8Ω)、400W(4Ω) ●入力端子:RCA×1、XLR×1 ●スピーカー出力端子:2組(並列) ●大きさ:267W×83H×295Dmm(最大外形) ●重さ:7.3kg ●音ゼファン

同社プリアンプDDP-1とぜひセットで使って欲しい。A級アンプのような豊かな倍音を放ちながら、D級アンプならではの俊敏な立ち上がり大きな魅力。小型サイズながら325W(8Ω)の大出力を発生し、制動力も高い。●角田

須藤☆  
角田☆☆☆

## デノン PMA-2500NE ¥230,000

●定格出力:80W×2(8Ω) ●アナログ入力端子:ライン(RCA)×4、フォノ(MM/MC)×1、メインイン(RCA)×1 ●デジタル入力端子:USB-B×1、RCA×2、TOS×2 ●出力端子:録音×1、標準ヘッドフォン×1、スピーカー×2組(並列) ●大きさ:434W×182H×431Dmm ●重さ:25kg ●D&Mお客様相談センター

人気、実力共に高かったPMA-2000シリーズの後継機。UHCシングル・プッシュプルや2電源トランス、大型アナログボリューム搭載など、基本技術を受け継ぐ。USB DACを内蔵してDSD 11.2MHz、PCM 384kHz/32bitにも対応。●石田



石田☆☆ 貝山☆☆  
須藤☆☆ 藤岡☆☆  
山之内☆☆ 岩出☆☆



3位



## ラックスマン L-550AX II ¥360,000

●実効出力:20W×2(8Ω) ●入力端子:ライン×5(RCA×4、XLR×1)、フォノ(MM/MC)×1、メインイン(RCA)×1 ●録音機用入出力端子:1組 ●出力端子:プリアウト(RCA)×1、スピーカー×2組、標準ヘッドフォン×1 ●大きさ:440W×178H×454Dmm(端子、ノブ含む) ●重さ:24.3kg ●ラックスマン

よく、この価格で実現できたと感心する。実に濃い内容だ。音も直熱3極管300Bのような透明度の高い色濃い倍音を放ち、静寂感を保ちながら俊敏な立ち上がりも示す。私はハイスピード・アンプと呼びたい。●角田

石田☆☆ 鈴木☆☆ 角田☆☆☆

## デノン PMA-1600NE ¥150,000

●定格出力:70W×2(8Ω) ●アナログ入力端子:ライン(RCA)×3、フォノ(MM/MC)×1 ●デジタル入力端子:USB-B×1、RCA×1、TOS×2 ●出力端子:録音×1、標準ヘッドフォン×1、スピーカー×2組(並列) ●大きさ:434W×135H×410Dmm ●重さ:17.6kg ●D&Mお客様相談センター

PMA-1500REをモデルチェンジした中級機。上級機の技術を継承、低歪みでクオリティを強化、鮮度の高い音を達成している。低域のエネルギーが強化され、また制動力も改善。低音楽器のもたつきがなく明確な表現。●福田

石田☆☆ 鈴木☆☆  
角田☆☆ 福田☆☆☆



## エソテリック F-05 ¥700,000

●出力:120W×2(8Ω) ●入力端子:ライン×6(RCA×4、XLR×2)、フォノ(MM/MC)×1、メインイン(XLR)×1 ●出力端子:プリアウト/録音兼用(RCA×1、XLR×1)、標準ヘッドフォン×1、スピーカー×2組 ●大きさ:445W×191H×468Dmm(突起部含む) ●重さ:32kg ●ティアック AVお客様相談室

エソテリック最高級の“Grandioso”シリーズのアンプで培われたノウハウを集約したプリメイン型。出力は120W/ch(8Ω)、240W/ch(4Ω)と大出力。トーンコントロールは高・中・低が独立の3バンド方式。●藤岡

藤岡☆☆ 山之内☆☆

## アコースティック・アーツ POWER I-MK4 ¥1,200,000

●出力:135W×2(8Ω) ●入力端子:ライン×5(XLR×2、RCA×3) ●出力端子:スピーカー×1組、標準ヘッドフォン×1、プリアウト(RCA)×1 ●大きさ:482W×145H×450Dmm ●重さ:約22kg ●ハイ・ファイ・ジャパン

POWER I-MK3からの変更点は新たなバランスXLR入力の搭載やフォノ入力の省略など。出力段には厳選されたMOS-FET出力トランジスターを搭載する。クロムメッキされた重量級コントロールノブなどの操作感も別格である。●須藤

須藤☆☆ 福田☆☆ 岩出☆☆☆



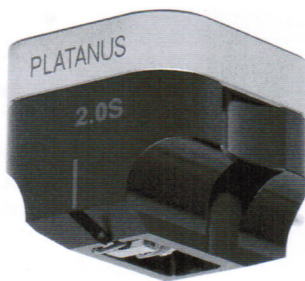
●カートリッジ

**プラタナス 2.0S** ¥360,000

●型式:MC型 ●出力電圧:0.3mV ●インピーダンス:2.5Ω ●針圧:1.9~2.1g ●針先:  
ラインコンタクト ●重さ:16g ●音楯音舎

アルミテーパー・カンチレバーにラインコンタクト針のオーソドックスな構造。純鉄からヨークを削り出して磁気回路は一体化され、大きく強固にして高い情報量と音質を得ているようだ。中低域が厚く高い解像力が音質的な特徴。●石田

石田☆☆ 貝山☆  
角田☆☆ 岩出☆



●プレーヤー

**ティアック TN-570** オープン価格(実勢12万円前後)

●ドライブ方式:ベルトドライブ ●トーンアーム型式:ユニバーサルS字形・スタティックバランス ●適合カートリッジ自重:15~23g(ヘッドシェル含む) ●付属カートリッジ:VM型 ●アナログ出力端子=RCA×1(出力レベル:フォノ=4.5mV、EQライン=230mV) ●デジタル出力端子:USB-B×1、TOS×1 ●大きさ:430W×131.5H×355Dmm(突起部含む) ●重さ:約9kg ●ティアック AVお客様相談室

見かけは普通のアナログレコード・プレーヤーだがA/Dコンバーターを内蔵。PCやDAC内蔵型アンプと組み合わせてアナログレコードが楽しめる。また、フォノEQも内蔵。私は本機を“アナデジ”プレーヤーと呼んでいる。

●藤岡

鈴木☆ 藤岡☆☆ 岩出☆☆



●フォノイコライザー・アンプ

**アコースティック・アーツ TUBE PHONO II** ¥1,450,000

●入力端子:RCA×2(MM/MC各1) ●出力端子:RCA×1、XLR×1 ●入力インピーダンス:MC=100/235/475Ω、MM=47.5kΩ(60/160/280/380pF選択可) ●ゲイン:MM=約40dB、MC=約60dB ●大きさ:482W×100H×375Dmm ●重さ:12kg ●ハイ・ファイ・ジャパン

真空管とトランジスターそれぞれの長所をフルに活用したハイブリッドのフォノイコライザー。優れた電圧と高い電流供給の効果がはっきりと音に現われる。緻密さと力強さが両立したサウンドは価格にふさわしい。●貝山



貝山☆ 須藤☆☆ 山之内☆☆

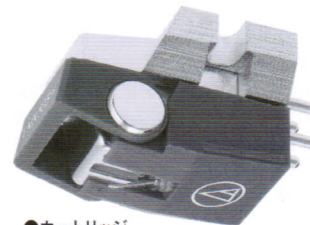
●デジタル出力フォノイコライザー・アンプ

**M2TECH Joplin mk2**

オープン価格(実勢22万円前後)

●入力端子:アナログRCA×1、デジタルRCA×1 ●アナログ入力感度:2.55V(0dBFS ゲイン=0dB)、1.14mV(0dBFS ゲイン=65dB) ●アナログ入力インピーダンス:47k(100pF/220pF)/16k/1k/500/200/50/20Ω ●デジタル出力端子:USB-B×1、RCA×1、TOS×1、XLR(AES/EBU)×1 ●大きさ:200W×55H×210Dmm(突起部含む) ●重さ:1.7kg ●エンゾJファイ

A/Dコンバーターを内蔵するデジタル・フォノイコライザー。LP用だけで16種類に及ぶEQカーブを内蔵し、レコードの特性に合わせて最適なカーブを選ぶことができる。50~60年代レコードの音質改善に威力を発揮する。●山之内



●カートリッジ

**オーディオテクニカ VM750SH** ¥50,000

●型式:VM型 ●出力電圧:4mV ●負荷抵抗:47kΩ ●負荷容量:100~200pF ●針圧:1.8~2.2g ●針先:無垢シバタ針 ●重さ:8g ●オーディオテクニカ

VMシリーズの中核モデル。今回、針圧2gで多少重く設計された。シリーズのなかでSHは抜群の性能に到達している。広帯域、高解像度で洗練された性能はMM型系では見事な特性、表現力となっている。●福田

石田☆ 福田☆☆☆



鈴木☆ 須藤☆☆ 山之内☆☆

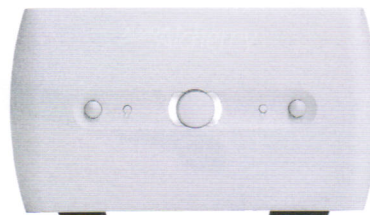
●フォノイコライザー・アンプ

**オーディオ・アルケミー PPA-1** ¥320,000

●入力端子:RCA×2 ●入力感度(XLR 1V出力):0.45mV(High)、3mV(Low) ●入力インピーダンス:47kΩ、1~1000Ω(可変) ●出力端子:RCA×1、XLR×1 ●大きさ:140W×83H×295Dmm ●重さ:4.1kg ●ゼファン

RIAAや増幅の回路にディスクリート構成によるウルトラ・ローノイズFETを採用したフォノイコライザー・アンプである。連続可変負荷設定やMC/MMゲイン設定などの機能にXLRバランスとRCAアンバランスの出力端子を装備する。●須藤

須藤☆☆ 山之内☆☆ 岩出☆☆



**角田郁雄**が選んだ  
2016年の優秀コンポ  
[プリ・メインアンプ編]

ラックスマン L-550AXII	¥360,000	☆☆☆
アキュフェーズ E-270	¥300,000	☆☆
エソテリック F-03A	¥950,000	☆☆
デノン PMA-1600NE	¥150,000	☆☆
ラックスマン LX-380	¥460,000	☆

近年、高品位なプリ・メインアンプを好む傾向が続いている。細身のフロア型や小型のスピーカ、CDプレーヤーとコンビを組み、スタイリッシュなオーディオを楽しみたいという考えだ。私は、若い世代の方をオーディオに招くという意味でも、この考えに賛同する。選考では、長く使用でき、制動力のあるモデルを選んだ。

L-550AXIIは、B&W802D3を朗々と鳴らす制動力を備え、真空管のような透明度の高い倍音を鮮度高くA級出力段が実現する。空間描写を得意とし、奏者や歌い手に熱き躍動感をおぼえさせることとデザインを高く評価。アキュフェーズは上位モデルの技術エッセンスをE-270に投入。高いダンピングファクター、低い歪み

率、高いS/Nの3点が大きな特徴で、再生した音楽を鮮度高く、空間に描く。色付けを抑えた音であるが、中低域にしつかりとした量感があり、同社のA級アンプに迫る倍音再現も実現。

F-03Aはハイスピード・プリメインと呼びたくなるほど、音の鮮度が高く、切れ込みの良いダイナミック表現を得意とする。その裏付けとなるのは、精密感に溢れた増幅ステージと電源部だ。PMA-1600NEはSACDプレーヤー、DCD-1600NEとともに、フレンドリーで高品位な音を楽しみたい方のために選んだ。クラシカルなLX-380は、驚くほど鮮やかな響きとドライブ力を身に付けた。真空管プリメインの逸品だ。



ラックスマン L-550AX II

**須藤一郎**が選んだ  
2016年の優秀コンポ  
[プリ・メインアンプ編]

エソテリック F-03A	¥950,000	☆☆☆
アコースティック・アーツ POWER I-MK4	¥1,200,000	☆☆
アキュフェーズ E-270	¥300,000	☆☆
デノン PMA-2500NE	¥230,000	☆
ラックスマン LX-380	¥460,000	☆
マランツ PM6006	¥60,000	☆

プリ・メインアンプは、エントリーからハイグレードなシステムまで、コントロールセンターとしての機能とスピーカー駆動能力を兼ね備えたオーディオシステムの中枢としての評価になる。

F-03Aはフルバランス構成プリアンプとクラスAパワーアンプを搭載したリファレンスモデル。プリアンプからパワーアンプ最終段まで全段L/R独立のデュアルモノラル構成となっている。アコースティック・アーツのパワーI-MK4はMOS-FETパワートランジスタによる高品位なパワーアンプを搭載。E-270はE-260の後継機として上位機の先進テクノロジーにAAVAポリウムコントロールなどの技術を導入した。PMA-2500NEはアドバンスド

UHC-MOSシングルプッシュプル回路のパワーアンプを搭載するが、11・2MHz DSDや384kHz/32ビットPCM対応USB DACの機能を併せ持つ。

LX-380は同社真空管プリメインの本流として、モデルナンバーに「38」というラックスマンのゴールデンナンバーを受け継ぐ最新のモデルになる。PM6006はスピーカー駆動力の向上をテーマにパワーアンプ・ドライバードのパートランジスタを大型化し瞬時電流供給能力をアップするなどのグレードアップが施されたエントリーモデル。ハイレゾ対応デジタル3系統の入力を装備し、最大192kHz/24ビットのPCM入力にも対応する。



アコースティック・アーツ POWER I-MK4

藤岡 誠が選んだ  
2016年の優秀コンポ  
[プリ・メインアンプ編]

エソテリック F-03A	¥950,000	☆☆
エソテリック F-05	¥700,000	☆☆
アキュフェーズ E-270	¥300,000	☆☆
ラックスマン LX-380	¥460,000	☆☆
トライオード TRV-A300XR	¥240,000	☆
デノン PMA-2500NE	¥230,000	☆

私を含め多くの選考者は、高級で高価な製品を選出するだろう。しかし私は、25万円前後の中間価格で趣味性を持った製品にも視野を広げ2機種を選定した。ひとつはトライオードの真空管方式TRV-A300XRだ。これは出力管に300Bを単管で固定バイアス回路で用いている。出力は常識的な8W/ch(8Ω)を発生する。バイアス値の調整は、シャーシ上面のメーターで容易に行なえる。3系統のライン入力の上1系統は前面パネル側に配置。フォノEQ(MM対応)も内蔵。音量調整とミュート機能を持ったリモコンも付属する。真空管アンプに興味を持つ方は特に注目されたい。もうひとつはデノンのPMA-2500NE。これは生産が終了したPMA-2000R

の後継型だが、内容と機能面では別物である。出力は80W/ch(8Ω)で共通。出力段をチェックすると、これまでは2段構成(フラットアンプ+パワーアンプ)だったが、1段構成(ハイゲイン・パワーアンプ)になっている。また、機能面では、デノンのフルサイズのプリメイン型では初めてUSB DACを搭載。MM/MC対応フォノEQも内蔵している。本機は今後、この価格帯でのベストセラーは間違いないだろう。

エソテリックF-05、同F-03A、アキュフェーズE-270、ラックスマンLX-380の4機種は各2点を加点。LX-380はパワーアンプ部が真空管方式のハイブリッド型である。これらの詳細は各社のHPに詳しい。



トライオード TRV-A300XR

福田雅光が選んだ  
2016年の優秀コンポ  
[プリ・メインアンプ編]

アキュフェーズ E-270	¥300,000	☆☆☆
エソテリック F-03A	¥950,000	☆☆
ラックスマン LX-380	¥460,000	☆☆
デノン PMA-1600NE	¥150,000	☆☆
アコースティック・アーツ POWER I-MK4	¥1,200,000	☆☆
マランツ PM6006	¥60,000	☆☆

今期注目した製品のなかから上位6製品をリストに並べた。高額製品が多いが、このクラスの進化と魅力も理解しておきたい。アコースティック・アーツやエソテリックの価値を納得した上で、オーディオは低価格でも性能は進化している。このクラスを使うシステムもオーディオである。マランツのPM6006は解像力、ダンピング、SN比に優れ、薦められる。

この部門で最も注目したのはアキュフェーズのE-270である。SP出力リレーを半導体化して直流抵抗を下げ、ダンピングファクターを400に、SN比はE-600と同等に20%改善。その結果、高SN比で陰影コントラストが高く表現力が極めて明確だ。ラックスマンのLX-380

の魅力は格段に進化した音質性能。その背景には、真空管アンプで初めて採用されたLECUAなど、新技術を投入した新しい設計にあるだろう。どこか真空管らしいなめらかなさを漂わせながら、しかし、混濁のない明瞭でニュートラルな音質、広帯域でレスポンスに優れている。一般にはデノン1600NEクラスが値頃な範囲となる。1500REのモデルチェンジで、音質は低歪みでタオリティが高く鮮度が高い。低域のエネルギーが強化され、また低音のもたつきもなくダンピングの効いた強力な内容であるため、コストパフォーマンスが高い。全般に新製品の進化は大きい。旧製品が全くひどいレベルであった、ということはない。十分に性能高い経歴の上での進化である。



マランツ PM6006

石田善之が選んだ  
2016年の優秀コンボ  
[パワーアンプ編]

アコースティック・アーツ AMP II-MK3	¥1,850,000	☆☆
アコースティック・アーツ MONO III	¥3,800,000pair	☆☆
オクターブ RE320	¥1,450,000	☆☆
フェーズメーション MA-2000	¥1,250,000/1台 (mono)	☆☆
マークレビンソン No.534	¥2,150,000	☆☆

# パワーアンプ部門

物量を感じさせ、存在感の大きなコンボだが、国内ではアキユフェーズもラックスマンもエソテリックも新製品はない。また、海外のメジャーブランドも同様で非常に寂しい限り、ある種のサイクルから外れてしまった不作な年であったと言わざるを得ないようだ。そうした厳しい条件のもとでの選択だが、パワーアンプはオーディオという趣味にあってもさらに強い興味性を感じさせる世界で、やはり大規模、大型製品が幅を利かせる。管球式が依然として高い人気を保ち、まるでそれが最先端な印象にすらつながる存在感である。一時期は省電力・高効率という風潮が強かったが、幸か不幸か現在ではあまり云々されなくなって、Aクラスやトランスと組み合わせさせた管球式に対す

る要求がまだまだ高いようである。パワーアンプはスピーカーをドライブするものであるということは言うまでもないが、その相手となるスピーカーにはこのところ低インピーダンス化傾向がみられる。一昔前までは8Ωが基準だったが、最近では特にウーファアの複数化傾向で、しかもバラレル使いされるということはインピーダンスが下がる。能率を数値で謳う上からも低めの方が有利になるということもあるのだから、6Ω、4Ωのスピーカーシステムが増えつつあるようだ。アンプにとってこうした低インピーダンス化傾向は、見かけ上のパワーは有利になるものの、低域までしっかりとドライブするために、それなりの電源部が必要になるのである。



フェーズメーション MA-2000



鈴木裕が選んだ  
2016年の優秀コンポ  
[パワーアンプ編]

アコースティック・アーツ MONO III	¥3,800,000pair	☆☆
フェーズメーション MA-2000	¥1,250,000/1台 (mono)	☆☆
アコースティック・アーツ AMP II-MK3	¥1,850,000	☆☆
オクターブ RE320	¥1,450,000	☆☆
オーディオ・アルケミー DPA-1	¥380,000	☆
クリーク Evolution 100P	¥290,000	☆

アコースティック・アーツのMONO IIIはこれだけ大きなパワーアンプで出力もデカイが、反応が速い。「立ち上がり・立ち下がり」の測定値がスペックにあるのだが（この項目があること自体、そういうことを意識しているということだろう）、同社のプリ・メインアンプ、パワーII-MK2が4・5ms（4Ω）であるのに対して、3・1msという数字。コクや深みを持ちつつ、実に伸びやかでスケール感のある音。研ぎ澄まされた感じもある。

フェーズメーションのは前段にソブテックの2A3、トランスドライブでプスパンの300Bをパラシシングルで使った25Wの出力。300Bらしい繊細感や透明感もあるが、同時に低域のエネル

ギーもきちんとしていて、さまざまな音楽やスピーカーを気持ちよく鳴らせそう。オクターブのはKT150をプッシュアップで使っているが、130Wの大出力を達成しているのが大きな特徴。鳴らしにくい、インピーダンスが4Ωで能率が86dBといったスピーカーをうまく駆動してくれるだろう。音はフォーマルで端正な色彩感と音色再現性を持っているが、従来より若干高域の倍音が多めになっているように感じた。

オーディオ・アルケミーDPA-1は入力段がクラスAでリニア電源。出力段にクラスDを持ってきている。音は温度感高め、厚みのあるもの。クリークのはイギリスの伝統を感じさせる中域重視の暖かみのある音。駆動力もきちんとしている。



クリーク Evolution 100P

貝山知弘が選んだ  
2016年の優秀コンポ  
[パワーアンプ編]

アコースティック・アーツ MONO III	¥3,800,000pair	☆☆☆
マークレビンソン No.534	¥2,150,000	☆☆
オクターブ RE320	¥1,450,000	☆☆☆
フェーズメーション MA-2000	¥1,250,000/1台 (mono)	☆☆

今回はアキユフェーズとエソテリックにこのジャンルの製品がなく、たった4機種の選択となった。アコースティック・アーツのモノラル・パワーアンプMONO IIIは、ペアで380万円の高級モデル。定格出力が1100W（4Ω）、600W（8Ω）という大出力パワーアンプだ。図体は一台でも大きく高さ35cm、幅約48cm、奥行43cm、重量も60kgと重い。サウンドでは力強さが目立つがノイズは少なく、解像度が高い。オーケストラのピアノシモからフォルテシモまでのダイナミックスレンジは壮大の一言。音場の広がりも雄大で、モノラルであることから音像の定位も鮮明である。オクターブRE320は真空管ステレオ・パワーアンプ。出力段は5極出力管KT150をプ

ッシュアップで使い、4Ω負荷で定格130W、最大200Wの大出力を得ている。ドライバー段にはECC82（3本）を使用している。

マークレビンソンNo.534は最新のステレオ・パワーアンプである。出力段はABクラスで、定格出力は4Ω負荷で500W×2、8Ω負荷では250W×2の大出力が得られる。電圧ゲインとドライバーステージはAクラス動作だ。フェーズメーションのMA-2000はモノラルの真空管アンプ。出力段は銘球300Bをパラレルシシングルで使用し、ドライバー段は2A3+トランス結合で構成。その前段は12AX7SRPPで構成している。3極管だけを使った無帰還回路の採用で、ごく自然な音調が得られている。



オクターブ RE320

**角田郁雄**が選んだ  
2016年の優秀コンボ  
[パワーアンプ編]

- フェーズメーション MA-2000 ¥1,250,000/1台 (mono) ☆☆☆☆  
オーディオ・アルケミー DPA-1M ¥760,000pair ☆☆☆  
アコースティック・アーツ AMP II-MK3 ¥1,850,000 ☆☆☆  
スベック RPA-W5ST ¥350,000 ☆

現在の半導体パワーアンプ技術は、高いダンピングファクター、高いS/N、低い歪み率という3要素が中心。しかし、これらの特性だけが、リスナーそれぞれの聴感を満足させるわけではない。長年培ってきた真空管アンプの技術や最新のD級アンプにも、現在のA級、AB級パワーアンプとは違った技術的特徴や味わいがある。そんなことを焦点にし、今回選考した。

MA-2000は「King Of Tube」とも言われる直熱3極管300Bを2本、パラシングルで使用するモノラルアンプである。25Wを発生、JBLのDD66000とのダブルウーファーを確実にドライブし、ホーンドライバから豊潤な倍音とエネルギーを音圧が噴出する。無帰還

現在の半導体パワーアンプ技術は、高いダンピングファクター、高いS/N、低い歪み率という3要素が中心。しかし、これらの特性だけが、リスナーそれぞれの聴感を満足させるわけではない。長年培ってきた真空管アンプの技術や最新のD級アンプにも、現在のA級、AB級パワーアンプとは違った技術的特徴や味わいがある。そんなことを焦点にし、今回選考した。

AMP II-MK3はダンピングファクターを高める機能を備えたAB級アンプだ。MOS-FT出力段と強力な電源部により、素早い音の立ち上がりとA級アンプに迫る倍音を再現。RPA-W5STは海外でも人気のあるD級アンプで、真空管のような透明度の高い倍音と高密度な音像が魅力で、立ち上がりも俊敏である。



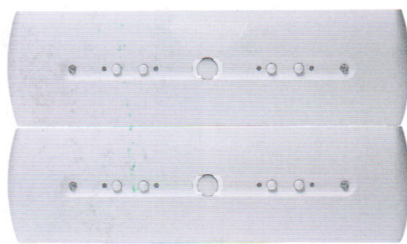
スベック RPA-W5ST

**須藤一郎**が選んだ  
2016年の優秀コンボ  
[パワーアンプ編]

- フェーズメーション MA-2000 ¥1,250,000/1台 (mono) ☆☆☆  
オクターブ RE320 ¥1,450,000 ☆☆☆  
アコースティック・アーツ MONO III ¥3,800,000pair ☆☆☆  
ニュープライム STA-9 ¥95,000 ☆☆☆  
クリーク Evolution 100P ¥290,000 ☆☆☆  
オーディオ・アルケミー DPA-1M ¥760,000pair ☆☆☆

パワーアンプに要求される機能はスピーカーの駆動能力である。管球式パワーアンプの魅力度にも注目したい。小電力でも大型スピーカーを朗々と鳴らす実力には目をこらす。MA-2000は3極真空管300Bを固定バイアスのシングルによる純A級動作のパラレルシングル出力段としたモノラル型。300B本来の素性の良さを最もシンプルな動作で発揮させようという構成。RE320はKT150を5極管接続プッシュプル出力段として搭載した管球式パワーアンプである。バイアス調整機能によりKT120、6550、KT88などの同管と差し替え可能な仕様になっている。MONO IIIは強力なりファレンスクラスのウルトラハイパワー・

モノラルパワーアンプ。24個のMOS-FET出力トランジスタによるAB級動作にて1100W(4Ω)という仕様。STA-9は真空管アンプ特有の魅力的な音調を彷彿とさせるべく進化した偶数次高調波回路により設計されている由。オリジナルのA+D級アンプには真空管のような豊かなサウンドを再現する技術が導入されている。エポリユーシオン100Pはカスケード接続の差動型直流アンプと2重ダーリントン出力段構成のバイポーラトランジスタによるG級動作を採用。DPA-1Mはモノブロック構成。高効率なD級の出力段とA級の入力段を巧みに組み合わせることにより、低消費電力でありながらも駆動能力を併せ持つ。



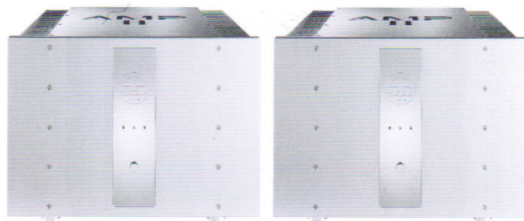
オーディオ・アルケミー DPA-1M

藤岡 誠が選んだ  
2016年の優秀コンポ  
[パワーアンプ編]

アコースティック・アーツ MONO III	¥3,800,000/pair	☆☆☆☆
オクターブ RE320	¥1,450,000	☆☆☆☆
マークレビンソン No.534	¥2,150,000	☆☆
フェーズメーション MA-2000	¥1,250,000/1台 (mono)	☆☆
クリーク Evolution 50P	¥150,000	☆☆

今回、私は5機種を選定。その中でアコースティック・アーツのMONO IIIをトップにした。ワイドバンドでダイナミックレンジが広く、爽快感とダイナミズムが融合した聴こえである。試聴時に組み合わせられていたスピーカーシステムはTADのTAD-EE1。TADのスピーカーシステムはTAD-EE1に限らず、組み合わせたパワーアンプ等の聴こえの傾向を明確に表現するがMONO IIIは高度なプレゼンスを持っている。出力は600W(8Ω)でモノブロック型。ダンピングファクター切り換え機能があつて、組み合わせるスピーカーシステムとの整合性を考慮するとこの機能は有効。まずは文句なしのポテンシャルを持つ。オクターブRE320は最近大注目目の5極出

力管KT150の5極管接続アツシユブル。例によつて、固定バイアス回路だからKT88、6550(C)、KT120等の類似管を使うこともできる。入力にはRCAの他にXLR端子も装備するがおすすめはRCAのアンバランスでの伝送。資金に余裕があれば、別売の電源強化ユニット「ブラック・ボックス」。「スーパードラック・ボックス」を加えると凄くいい。マークレビンソンNo.534は、同社の従来型よりも穏やかな聴こえ。同社の新しい方向性かもしれない。フェーズメーションMA-2000は真空管方式でモノブロック型。出力段は300Bのバラレルシングル構成。クリークのエボリューション50Pは薄型。CPが高い。



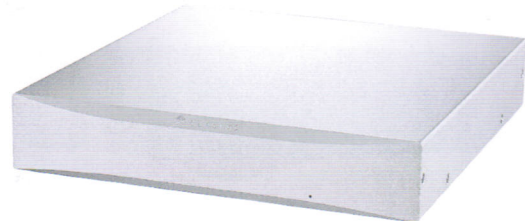
アコースティック・アーツ MONO III

福田雅光が選んだ  
2016年の優秀コンポ  
[パワーアンプ編]

オクターブ RE320	¥1,450,000	☆☆
フェーズメーション MA-2000	¥1,250,000/1台 (mono)	☆☆
アコースティック・アーツ AMP II-MK3	¥1,850,000	☆☆
クリーク Evolution 50P	¥150,000	☆☆
ニュープライム STA-9	¥95,000	☆☆
マークレビンソン No.534	¥2,150,000	☆☆

この部門は15機種の候補の中から推薦枠いっぱいを選択。価格ランクそれぞれに優秀製品が揃う。アコースティック・アーツはデザイン、構造にこだわる欧州製。モノタイプもあるが、一般にはステレオタイプの方が使いやすい。力のあるエネルギー、解像度、レスポンスに優れた立体感のある音像構成力など陰影コントラストの高い能力が魅力。マークレビンソンからもNo.534が登場。ファンに存在感を示した。これはニュートラルで高解像度、正確な表現力で帯域全体が一貫している。構造スケールでの大物はフェーズメーションのモノラル真空管アンプMA-2000。300Bパラレルシングル無帰還方式。高SN比でスカットと抜けきる広帯域で解像度の高い性能。ほの

かに潤う温かさが真空管らしさを感じさせる。低音は力強い弾力でパワーがあり、自然な音質は音楽のニュアンスが素晴らしい。もうひとつ独の真空管アンプ、オクターブ。最近の優秀真空管アンプは、ほとんど真空管方式らしい音がしない。広帯域、高解像度で、真空管を使い最先端の音を追求しているようだ。値頃感のある中級製品で注目は、クリークの50P。シンプルだがエネルギー源は強力。オーソドックスな高解像度調で強力な中低音、高域特性も繊細な解像力を備え、締まりを効かせる。エントリー、コンパクトさではSTA-9が見逃せない。RCA入力有利だが、力があり解像度、明快なレスポンス、低音力、音像感が魅力。



ニュープライム STA-9

**本誌・岩出**が選んだ  
2016年の優秀コンポ  
[パワーアンプ編]

サン・オーディオ SV-50TSM	¥685,000/1台 (mono)	☆☆
ファーストワット F7	¥400,000	☆☆
フェーズメーション MA-2000	¥1,250,000/1台 (mono)	☆☆
オーディオ・アルケミー DPA-1	¥380,000	☆☆
クリーク Evolution 50P	¥150,000	☆☆
オクターブ RE320	¥1,450,000	☆☆

コントロールアンプほどではないが、今年のエントリー数は少なかった。そのなかで押しも押されぬハイエンド機はMA-2000ということになる。300Bのパラシングル構成で、全段3極管無帰還のモノラル機であり、並々ならぬ管球アンプへの傾倒を表現した。音質的にはホログラム的な立体表現力に脱帽。同じく管球アンプではRE320が魅力的。ドイツらしい細部を磨き抜いたシンプルデザインとハイスピード・サウンドに注目したい。

以下4機種はオーディオの多様性から選択した。薄型CD/DACプリとベアになるエポリユーシオン50Pは、薄型で比較的軽量なのでバーサタイルに使える。F7は、アンプはアイデア次第でここまでシンプルになれるか、という見本。といって音質が劣るわけではない。直熱3極管シンケルを理想とするバスの世界爆発である。ある意味管球アンプとの血縁関係が楽しめる。DPA-1はDDP-1のベアになるデジタルアンプ。といってもアナログ入力なので普通に使えるし、小型コンパクトなのが何より嬉しい。音はデジタルらしくなく、アナログ的なマツシブさを持つ。RCAの名球50がプスパンにより復刻された。それを受けてサン・オーディオがSV-50TSMを開発したわけだ。パラシングルのモノラル機で、同社ではすでにシリーズとして2A3、300Bのものも販売している。9Wの出力ではあるが、注目したのはその有機的な美音である。



ファーストワット F7

**山之内 正**が選んだ  
2016年の優秀コンポ  
[パワーアンプ編]

アコースティック・アーツ AMP II-MK3	¥1,850,000	☆☆
アコースティック・アーツ MONO III	¥3,800,000pair	☆☆
マークレビンソン No.534	¥2,150,000	☆☆
オクターブ RE320	¥1,450,000	☆☆
フェーズメーション MA-2000	¥1,250,000/1台 (mono)	☆☆

今年登場したパワーアンプは真空管アンプが強力な存在感を放っているが、ソリッドステート方式にも重要な製品がいくつか登場した。AMP II-MK3とMONO IIIはその代表格で、どちらもタンピングファクターの挙動を見直してスピーカー駆動力を飛躍的に高めた。しなやかで厚みのある音色と、他のパワーアンプでは置き換えがたいほどの豊かな音楽表現力を兼ね備え、フラッグシップ級スピーカーも余裕で鳴らすことができる。No.534は昨年登場したNo.536をデュアルモノラル化したモデルで、こちらもモノラルアンプに迫る駆動力の余裕が聴きどころだ。

真空管方式ではRE320やMA-2000など、ハイエンド・クラスに強力な製品が相次いで登場した。前者はKT150プッシュプル、後者は300Bシングルと出力管と出力回路の性質は対照的で、その志向の違いこそが真空管アンプを選ぶ醍醐味でもある。RE320はジュビリーSEの技術を受け継ぐ直系のステレオ・パワーアンプで、瞬発力の高い駆動力とハイスピードな音調は、最先端のフラッグシップ級スピーカーと組み合わせても聴き劣りしない。特に、ピエガのマスター・ライン・ソース2からも深々とした低音を引き出したことには強い印象を受けた。MA-2000はドライバードに2A3を採用し、トランス結合で300Bを駆動する贅沢な構成が目を見く。全段3極管の無帰還アンプにこだわった結果、比類ない高密度で濃密なサウンドを獲得している。



マークレビンソン No.534

鈴木裕が選んだ

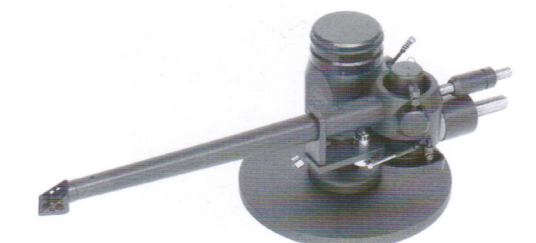
2016年の優秀コンボ

[アナログディスク再生関連編]

クズマ 4Point	¥998,000	☆☆
テクニクス SL-1200G	¥330,000	☆☆
フェーズメーション PP-500	¥220,000	☆☆
ティアック TN-570	Open (実勢価格12万円前後)	☆
M2TECH Joplin mk2	Open (実勢価格22万円前後)	☆
iFi Audio micro iPhono2	Open (実勢価格7万4千円前後)	☆☆

この項目は関連する製品が多く、来年はもうすこし細分化した方がいいかもしれない。プレーヤーとフォノイコライザーは別のジャンルと思う。クズマの4POINTは高剛性なつくりのトーンアーム。4点のスパイク状の部分で可動部分を構成しているためにこの名前になっている。高いエネルギーを持った太い音だが、同時に情報量が多いという、トレードオフにありそうなものを聴くことができる。また、音を聴きながら根本の高さを調節できるのだが、VTAの角度がいかに大切かを教えてくれる。

テクニクスのは設置場所の状況に敏感だが、きちんとつくり込んであるプレーヤーだ。S/N感もいい。フェーズメーションはフラッグシップであるPP-12000の良さを継承しつつ、上手にコストダウンを図ったカートリッジで高音の冴えざえとした音の美しさに魅了された。ティアックのはTN-350の成功を受けての上位機、というポジショニングだが、確かに各部をしっかりとくっている。プラッターは重くせず、制御系に力を入れているのが特徴。



クズマ 4Point

貝山知弘が選んだ

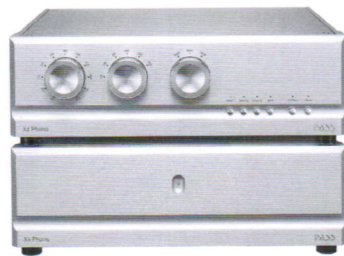
2016年の優秀コンボ

[アナログディスク再生関連編]

バス Xs-Phono	¥5,600,000	☆☆☆
オーディオテクニカ AT-ART1000	Open (市場予価¥598,000)	☆☆
テクニクス SL-1200G	¥330,000	☆☆
フェーズメーション PP-500	¥220,000	☆
プラタナス 2.0S	¥360,000	☆
アークステック・アーツ TUBE PHONO II	¥1,450,000	☆

選択の対象となるのはアナログディスク・プレーヤー、フォノイコライザー、カートリッジ、アームである。プレーヤーではテクニクスSL-1200Gを選んだ。先行発売された限定モデルとはアームの塗装とインシュレーターが違うだけ。フォノイコライザーでは真つ先にバスの超高級機を選んだ。600万円に近い高価なモデルだが、最新最高の内容を持ち、最高のサウンドが表出できることを思えば、致し方ないと納得できる。電源は別筐体に収められ、左右の電源はトランスの段階で分離されている。アークステック・アーツのフォノイコライザーも注目値するモデル。真空管とトランジスターの特長を活かしたハイブリッドの高級機だ。

今年M.C.カートリッジの新製品も注目できる。オーディオテクニカは最高級カートリッジART-1000を発売したが、これは噂に違わぬ傑作で素晴らしい再生音を聴かせてくれた。コイルをカンチレバーの先端に位置させた構造には意表を突かれたが、その効果は大きく、ハイスピードで繊細極まる再生音が得られる。フェーズメーションの新作PP-500はミドルクラスのM.C.カートリッジ。同社が今までカートリッジに賭けた努力が報われた出来で、自然なエネルギーバランスのサウンドが聴ける。プラタナスは新顔のブランドだが、つくっているのは著名なカートリッジメーカーで研修を積んだ若人。第1作となる2・0Sは各社の高級機と競い合える出来だ。



バス XS-Phono

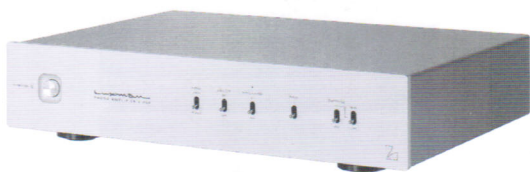
角田郁雄が選んだ  
2016年の優秀コンポ  
[アナログディスク再生関連編]

- フェーズメーション PP-500 ¥220,000 ☆☆☆  
 プラタナス 2.0S ¥360,000 ☆☆☆  
 オーディオテクニカ AT-ART1000 Open (市場予価¥598,000) ☆☆☆  
 テクニクス SL-1200G ¥330,000 ☆☆☆  
 ラックスマン E-250 ¥128,000 ☆

アナログ再生もハイレゾ(高解像度)時代を迎えた。聴き馴れたLPから録音した瞬間にワープするかのようなリアルな演奏が音像に浮かび上がるようになったと言えるであろう。カートリッジでは、空間が広く、リアルに音像が再現されること。アナログ再生で不可欠な微細な音と倍音再現性、そして中低域に厚みのある、量感に溢れた音が選考基準となった。そして長く愛用できるリーズナブルプライスのプレーヤーとフォノイコライザーを選んだ。

PP-500は、前述のすべてを満足し、PP-12000に迫る広い音場とリアルな音像を描くPP-2000より音像の輪郭を明瞭にし、立ち上がりを速めていることが特徴だ。プラタナス

2・0Sは大型ヨークを搭載し、2・5Ωという低い内部インピーダンスで、ワイドレンジ再生を狙ったモデルだ。驚くのは、中低域にかなり厚みを持たせたビラミッドバランスの音を再現することだ。それゆえに空間性に音像がやや大きく描写させるイメージ。AT-ART1000は、格別に解像度の高い音の特徴で、針先の真上に、発電コイルを配置したダイレクトパワー方式により、眼前に生々しい演奏のさまを描写する。特に中高域の鮮度の高さは格別。SL-1200Gは、長く愛用できる高精度プレーヤーとして選択。これに空間が広くLPの倍音を豊かに描くE-250を加えれば、リーズナブルプライスの高品位な基本システムが完結する。



ラックスマン E-250

須藤一郎が選んだ  
2016年の優秀コンポ  
[アナログディスク再生関連編]

- フェーズメーション PP-500 ¥220,000 ☆☆☆  
 テクニクス SL-1200G ¥330,000 ☆☆☆  
 アクステック・アーツ TUBE PHONO II ¥1,450,000 ☆☆☆  
 オーディオ・アルケミー PPA-1 ¥320,000 ☆☆☆  
 オーディオテクニカ AT-ART1000 Open (市場予価¥598,000) ☆☆☆  
 M2TECH Joplin mk2 Open (実勢価格22万円前後) ☆☆☆

アナログディスクの再生システムにはプレーヤーを中心にしてさまざまな周辺機器が関わる。ネットワークオーディオの台頭ではアナログディスクをデジタルファイルに変換する装置も必要になる。

MCカートリッジPP-500は、フラッグシップPP-12000の技術をフィードバックした高効率で均一性に優れた磁気回路、振動系の改良やジュラルミン材ベース、無垢ボロン材のキャンチレバーや無酸素銅線による発電コイルなどにより、PP-12000譲りの音像定位や空間再現力を発揮する。SL-1200Gはダイレクトドライブ・ターンテーブルシステムの新たなリファレンスとして登場。新開発された高精度なコアレスD

Dモーター、剛性と振動減衰特性を追求したブラッター、素材を吟味し精度を高めたトレース性能を向上させたトーンアームなどを搭載。

チューブ・フォノIIはトランジスタ技術の利点と真空管の原理とを結合させたTubeHybridのコンセプトにより誕生。MMとMCカートリッジに対応する。PPA-1は信号経路にはディスクリット構成のウルトラ・ローノイズFETサーキットが採用されている。AT-ART1000は発電コイルをスタイラスチップの真上に配置した独自のダイレクトパワー方式を採用のMCカートリッジ。M2TECHのジョブリンmk2は384kHz/32ビットPCMに対応のA/Dコンバーター。



フェーズメーション PP-500

**本誌・岩出**が選んだ  
2016年の優秀コンボ  
[アナログディスク再生関連編]

オーディオ・アルケミー PPA-1	¥320,000	☆
オーディオテクニカ AT-ART1000	Open (市場予価¥598,000)	☆☆
テクニクス SL-1200G	¥330,000	☆☆
フェーズメーション PP-500	¥220,000	☆☆
プラタナス 2.0S	¥360,000	☆
ティアック TN-570	Open (実勢価格12万円前後)	☆☆

スピーカー部門と同様に選択に苦慮した。というのはアナログブームで製品ジャンル、機種数ともに圧倒的に増え、一元的に選ぶのが困難であるからだ。プレーヤー部門、カートリッジ・その他部門に分けたほうがよいのかも知れない。来年のテーマである。それでもとりあえず6機種選んだ。何と言っても今年のプレーヤーではSL-1200Gだろう。随分高くはなったが、新開発モーターだし、プラッター、シャーシなど全体にグレードアップしたので、HICPと云っていいだろう。カートリッジではAT-ART1000とP-5000に注目した。前者は理想と言われるダイレクトパワーを開発し、カートリッジの性能を一段と高めている。後者はカートリッジで

も、もはやベテランの境地を迎えたフェーズメーションの最新作。フラッグシップのノウハウを基に、PP-300の発電系をリファインするなどして中堅機としての可能性を見いだした。TN-570はヒットモデルTN-350の上級としてリリースしたモデル。音質、機能ともに価格を思わせぬ出来が魅力だ。2・0Sは新進気鋭のブランドで、若いカートリッジエンジニアが担当。初号機から注目できる製品に仕上がっている。それにしても、いずれも職人さんの名人が手塩にかけたモデルばかりのジャンル、それぞれ個性があつて、それにハマる人にとってはかけがえない1台に違いない。それをセンター試験のように一律評価するのはなかなか難しい。



ティアック TN-570

**山之内 正**が選んだ  
2016年の優秀コンボ  
[アナログディスク再生関連編]

オーディオテクニカ AT-ART1000	Open (市場予価¥598,000)	☆☆
テクニクス SL-1200G	¥330,000	☆☆
フェーズメーション PP-500	¥220,000	☆☆
M2TECH Joplin mk2	Open (実勢価格22万円前後)	☆
アークスティック・アーツ TUBE PHONO II	¥1,450,000	☆☆
オーディオ・アルケミー PPA-1	¥320,000	☆

LPレコードの人气が復活するなか、この分野は例年になく活況を呈している。CDとハイレゾ音源が音楽ソースの中心を占める状況に変わりはないが、特に海外ではCDのシェア低下の反動かと思わせるほどにレコードの伸長が著しい。レコード人気音楽ファンの間に定着するかどうかは再生環境にかかっているのだ、ハードウェアが果たす役割は非常に大きい。幸運なことに日本の一部のメーカーはアナログ関連機器の開発環境をいまでも堅持しており、先達から受け継いだ設計ノウハウを活かして新製品の開発に取り組んでいる。その強みを製品として具体化してみせた例が、オーディオテクニカのAT-ART1000とテクニクスのSL-1200Gである。前者はスタ

イラス直近に発電コイルを配置して歪みと無縁の澄んだ再生音を実現、繊細な加工技術が要求される難度の高い構造にあえて挑戦した意欲的な開発姿勢は高く評価すべきだ。後者は往年の名機を彷彿させる外見が目をはくが、主要パーツをほぼすべて新規に設計し直し、最新技術を駆使して基本性能を高めることに成功。多くのレコードファンに愛されたデザインを継承しつつ、中身は最先端の仕様生まれ変わっていることに注目したい。フォノイコライザーは真空管式からデジタルまで、バリエーションの広さが今年の新しい潮流にみえる。なかでもデジタルベースで複数のEQカーブを実現したM2TECHのジョプリンmk2はレコード再生に新風を吹き込む製品だ。



テクニクス SL-1200G